

この家にしてよかった N048
感動! こんな家になるとわかっていたら、もっと・・・
理系の人の家づくり 施工はたたき上げの若い工務店

「この家にしてよかった」取材していて気づいたことだが、訪問先の方が「こんな家になるとは思わなかった」と共通して言う。「こんなに涼しいなんて」「こんなに暖かいなんて」とか、そこには色々なケースがあるが、茨城県の結城市に住宅を建てたAさんもその一人で、Aさんは少し意外だった。

A邸は栃木県小山市にある夢創ハウジング(株)(社長 中澤俊彦)の設計施工で平成27年7月完成した。「この家にしてよかった」に秘められた意外な点と中澤社長の家づくりに向かう経歴と姿勢が面白いので併せて紹介する。

■普通の建て方で省エネ住宅ができる

本誌の・・・話や・・・話はじめ、大感動の家は断熱構造的に言うと壁の断熱が共通して二重になっている。壁の外にも断熱材が加えられている付加断熱である。壁は外気に接する面積が大きいので断熱を強化すると家全体の断熱性能が大きく向上する。

では、付加断熱をしないと「こんな家になるとは・・・」という感動が生まれないかという必ずしもそうではない。特に、関東地方ぐらいの気候だと付加断熱なしでも暖房燃費を省エネ基準の1/2程度にすることはさほど難しくない。低燃費住宅になると省エネだけではなく冷暖房環境も格段によくなる。A邸も付加断熱はしていない。

■Aさんの「こんな家になるとは思わなかった」

Aさんは理系の人だ。勤務する仕事も、趣味も、日常も、色々なものを自分で工作する。たとえば、小型のサイクロン式と呼ばれる掃除がある。大多数の家では部屋の片隅に立てかけられていると思うが、それがロボット掃除機・ルンバとセットで所定の場所に収まる台があった。その台も秋葉さんが作った。その他、玄関からリビングに至る道筋に手づくりされたと思われるモノがいろいろある。

中でも熱帯魚は趣味の域を超えている。設計では書斎だった一部屋がまるまる熱帯魚室になっている。熱帯魚というより水草である。水草は熱帯魚を飼育するより難しいといわれる。大きな水槽に緑鮮やかな水草がまるで植物園のように森をつくって揺らいている。葉に苔もなく色がきれいでその栽培方法が専門誌にも取り上げられた。白い管が水中に引き込まれてリズミカルに気泡が出ている。植物に必要な二酸化炭素ですと教えてくれた。

なるほどと感心したのは水槽の温度管理。熱帯魚の水槽は25～26℃で水温が管理されている。一般には、水槽内にヒーターを入れて水を温める。夏は気温が高くなるから手はかからないかというそうではない。室温が上がれば水槽の水も上昇してしまうので、上がり過ぎて問題になる。水温の上下は水草にすごく悪いという。氷を入れながら水温上昇を抑えると聞いたこともある。ところがAさんは室温で水温を管理している。室温を26℃に保てば自動的に水温もそうなる。驚くことに夏も冬も水中のヒーターは使わないで室温で管理しているという。これも高断熱住宅だからできることだ。



夏、家全体を終日クーリングしている秋葉邸では熱帯魚・水草の管理はいわばその副産物である。Aさんが「こんなことができる」と最初からわかっていたらもっと違ったことかもしれません」と笑いながら話した。Aさんにとってもこれは意外なことだった。

冬暖かい家になることは知っていた。しかし、夏が全室涼しくできて、それが熱帯魚の管理にもこんなことができるとは予想していなかったのだ。

■暮らしてみても

今年の夏は関東も暑かった。Aさんは盆の休みの間ほとんど室内で過ごしていたという。室内の趣味に没頭していたこともあってか、カンカン照りの中「外が何℃か気がつかないで暮らしていた」という。幼い子供たちは汗疹もできず、暑くて寝苦しいこともなく、健やかに育っている。

冬は冬で、憧れの吹き抜けができて寒くならないかと心配したがそれもなく、家全体が暖かい。湿度も50%位に安定して加湿器は一度も使っていない。洗濯物は基本的に室内干しをしているがよく乾くのですごく助かっていると奥さんが話す。

A邸は南面の軒が上手く働いて、夏は日射の侵入を阻み冬は室内の奥深くまで差し込み暖かくしてくれる。暖かくなりすぎて逆に冬の方が室内の温度調整は難しいという。

それでいて、全体の光熱費は平月で月1万円、冷暖房する月がプラス1万円、年間合計17~18万円ぐらいだろうという。今の生活スタイルから考えると相当安いと感じている。

光熱費が少なくて快適、Aさんにとってはこれも意外だったようだ。「ここまでなるとは思っていなかったが、イメージ通りの暮らしができる家になりました」とAさんが言うとお奥さんがそばでニコニコしている。同行した中澤社長の前とはいえ、決してお世辞ではなさそうだ。

■付加断熱なし、省エネ機器なしで暖房燃費半分

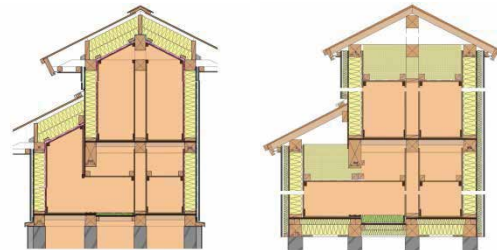
壁に付加断熱を施工しなくとも省エネ基準の二倍くらいの性能にはなると前述したが、あらためて秋葉邸の断熱仕様を整理してみる。右表がその具体的な断熱仕様と性能表である。ここでは、

断熱 開口部 換気 仕様書 ■床面積 141㎡		
天井	セルローズファイバー+押出法PSF 140+60mm	
外壁	充填部	セルローズファイバー 120mm
	付加部	
床	セルローズファイバー 120mm	
開口部	樹脂サッシ+ LOW-Eトリプルガラス	
換気	第3種換気 回数0.3回	

天井と床に断熱材が施工されている。例えばP//等をご覧いただくと屋根-基礎の断熱が多いことに気が付くはずだ。屋根断熱は空間が広がる利点がある。しかし、その分暖房量も多くなる。基礎断熱は施工性がいとか床下からの暖房方式が取れるとかメリットは多いが、一方でシロアリ対策等の課題も多い。また、寒地の場合、基礎断熱は床の表面温度がやや冷たくなる。その点、床にしっかり断熱されていると床が冷たくならない。冬の来客から「床暖房ですか?」と聞かれるほど暖かい床になる。床に無垢材を使うとさらに感触がいい。

断熱性能及び年間暖房エネルギー消費量 ■建設地 下妻市		
Q値 (Qa) 熱損失係数 (総熱損失係数)	1.42 W/㎡K (205)	
Ua値 外皮平均熱貫流率	0.47 W/㎡K	
暖房エネルギー年間消費量	電気 (効率1.0)	3901 Kwh
	灯油 (効率0.85)	448 ㍓

夢創ハウジングは四寸柱を標準としているので、断熱材は壁の内部に120mm入れることができる。ここにセルローズファイバーを吹き込む。床、天井ともセルローズファイバーが厚く施工されている。



中澤社長が特に意識して性能強化に注力しているのは開口部だ。窓面積を比較的多くとるのでその分高性能化を図る。A邸の北面の窓はすべて樹脂サッシでトリプルガラスが使われている。別な住宅では最新の五層ガラスを試験採用したこともある。開口部の断熱強化は住宅全体の断熱性能を大きく向上させる。

換気は第三種※を採用している。熱交換換気型は採用していない。それでもQPEXでは、暖房燃費が省エネ基準の47.5%と計算された。したがって住宅本体の基本性能は高い。ちなみに、この住宅に熱交換換気※を採用すると省エネ基準の60%以上の削減になる。

こんなふうに、断熱のかたちや開口部の性能アップなどで省エネ基準の燃費半分以下にすることができる。一度は少なくなった床断熱が今あらためて見直されている。

■工務店決定の理由

中澤社長の経歴とAさんの工務店決定理由には一つの必然性が感じられる。結果だけみれば、勤務する会社の先輩からの紹介ということになるが、単純な話ではない。Aさんも多くの人がそうするように、家を建てると決めてから、住宅展示場やハウスメーカーを訪問した。いくつかを訪問してみてハウスメーカーは何かが違うと感じた。ニコニコ顔で迎え、帰りには土産を渡され、中には弁当まで用意する住宅会社もあった。Aさんは自分が会社の仕事でしているように、住宅会社にもっと真剣味が欲しいとそれらに不足を感じ、ハウスメーカーはダメだと決めた。一方で、会社の先輩から中澤社長を薦められていた。しかし、工務店がいいとも思っていなかった。工務店にはピンからキリまでであると思っていた。そんなことで夢創ハウジングとは距離を置いていたのだが、ある時、夢創ハウジングで建てた家を見学することがあってそれがきっかけで中澤社長としばしば会うことになった。そこから、中澤社長に感ずるものがあるって住宅建築を依頼することになった。

■設備機器の選択基準

今、Aさんは中澤さんを評してこう言う。「中澤社長にはお客さんを紹介したいと思っていますが、中澤さんに向かない人というか、紹介できる人とできない人がいます。自分で決められないタイプの方は夢創ハウジングに向きませんね。ちなみに私は全部自分で決めさせられましたよ」と中澤社長をみて笑った。勿論、苦情を言っているのではない。

私はこれを聞いて、以前聞いていた話と少し違うと思った。中澤社長は、自分で確かめて自分が納得したものを薦めると言っていた。

中澤社長にそれを聞くと「あれはそうじゃないんです。設備機器にはメーカーごとにそれぞれ特徴があるので、特徴を知ってものを見て、そして決めましょうとアドバイスしたのです。たとえばホーロー製を特長にしている会社は耐久性を重視しています。一方、競合会社はホーローにはできないデザインを強調しています。A社はデザイン、B社は機能、C社は耐久性というように特徴があると私は見えています。そういう視点でものを見て選択してほしいとアドバイスしたのです。」Aさんはそのアドバイスを受けて選んだという。

中澤さんはお客さんが設備メーカーの展示場に行くときは必ず同行する。メーカーの方は自社のいいことしか話さないからがその理由だ。すべての建材資材機器に対して自分が納得したものだけ採用するという方針を持っている。

■下積み時代 忍耐と努力と

中澤社長は15歳で大工修行の道に入った。中学を卒業してすぐである。地元にある宮大工の集団に依頼して入れてもらったという。修業させて欲しいと自分一人で門に立った。時に15歳の少年である。先生には進学を薦められたので「ならば夜間高校で」と昼は大工見習、仕事を4時に上がらせてもらって、夜は定時制高校通いという生活をした。親戚縁者に建築関係の人はいない。ただ、建築をしたいという一念の思いからだった。

ここまで書くと、この話は一体いつの時代なのか、この人は今何歳なのか、多くの人は相応の歳を重ねた人をイメージしていると思うが、生まれは昭和55年、今年38歳である。大工修業に入ったのは平成になってからである。世がバブルで浮かれていたころ昼は現場、夜は学校という生活を歩んでいたのである。それが四年続いて定時制高校を卒業した。

最初は、道具を教えられ、墨付けを教えられ、手で切ることを教えられ、電動工具は一切使わせてもらえなかった。こうして学び、鍛錬し、そうして大工として合格をもらって修業は七年で終えた。

■独り立ちへ向けてさらに修業

「大工は住宅のことをなんでも知っている。世の中の方はそう思っているが、そうではない。大工仕事が一番前になっても家はつくれない」そう考えていた中澤さんは、住宅会社で現場管理と建築の総合勉強を目指した。このときも、自分がこの会社と思う工務店に直接行って希望を話した。将来独立したい、何年できるかわからないが働かせてほしい、正直にそう申し入れた。木造住宅の会社ばかりでなく、鉄筋コンクリートの建物もする会社も経験した。そうして独立までの8年間、延べ5社に籍を置き構造や基礎、屋根や板金、設備

等々大工仕事以外について多くを学んだ。各会社にはそれぞれの経営管理スタイルがあってそちらも勉強になった。これらの会社には長くて5年、短くて半年世話になって今も親しく交流があるという。

この頃結婚して子供も生まれた。しかし、見習いのような契約なので収入は大工時代の半額になった。その間夜のアルバイトもして生活を維持した。29歳の時、勤務していた会社で自宅を建て、そこを事務所に当初の予定通り30歳で独立した。

■友人との遭遇

独立したとはいえすぐ仕事があるわけではない。まだ前途にこれとまとまった仕事が決まってないその年の暮れ、コンビニでYさんという小中学校の幼馴染と偶然会った。缶コーヒーを片手に二人は立ち話をした。

「今何してるの?」

「建築の仕事をしてきて今度独立するよ」

「俺、今Mホームで建てようかと思ってるんだけどMホームをどう思う?」

「住宅はまずしっかりした構造、それに断熱が大事だよ」

「断熱?」

そんな会話がきっかけとなってYさん夫妻が中澤邸に何度か足を運んだ。

ある日Yさんがこう言った。

「Mホームはやめた。お前に一切任せるからいいように作ってくれ」

これが中澤さんの独立第一棟めの仕事である。

Yさんは夫婦とも快活で友人が多い。こんなエピソードがある。新築後の冬、家に友人を招き数人でたこ焼きパーティをしたときのこと。その中の一人が、暑いから暖房を消してくれと上着を脱ぎ始めた。奥さんが「何言ってるの、暖房ついてないわよ」というと「え、そうなの!」とそこにいた仲間が驚いたというシーンがあった。上着を脱いだその人は予定していたリフォームに断熱工事を追加したという。

Yさんはその後数件のお客さんを中澤さんに紹介、中澤さんも丁寧にこれに応え暖かい家を提供した。Aさんの先輩という人はYさんなのである。

■構造見学会

夢創ハウジングでは構造見学会を開催する。完成見学会と違って構造見学会に来る人は多くないが、年数回、予約制で開催する。1回の人数を限定できる予約制は構造の大切さをお客さんにじっくり話せることがいいと考えている。堅固な構造があってはじめて家は生きる。勿論、構造見学会では断熱も見える。すっかり完成して飾られた住宅では家の大切な部分はわからない。中澤さんはそう考える。

今の時代には死語に近いニュアンスがあるが、下積みの時代という言葉がある。15の歳から15年、中澤さんは下積みの時代だった。住宅の構造を重要視する気持ちはそこから来るのかもしれない。

中澤さんは自身が建築したOB客さんの家にお客さんを案内し、OB客さんの話を聞きながらみてもらうことが多い。自信がなければそういうことはできない。お客さんにとっては何よりのプレゼンテーションだ。

Aさんは「中澤さんのお客さんならいつ連れて来てもいいですよ」と言ってくれるそうだ。

確かなものは何か、双方に通ずるものがあるのだろう。

施工者データ	
会社名 代表者	夢創ハウジング(株) 中澤 俊彦
所在地	栃木県小山市乙女3-31-28
電話fax	0120-18-6350 0285-38-9291
Mail	musouhousing@ivory.plala.or.jp
ホームページ	http://www.musouhousing.com/index.html